



病害虫防除グループスペシャル

知ってとくとく  
エンドウ萎凋病の  
被害と防除



エンドウ萎凋病 (*Fusarium oxysporum* f.sp.*pisii*) はアメリカ、ヨーロッパ、旧ソビエト連邦、南アジア等広く発生しています。日本では、2002年に愛知県東三河地域で初めて確認されました。

## 病徴と診断

感染すると葉が淡黄色となり内側に巻き、生育が悪くなり、萎凋、枯死します。病原菌が導管に沿って上部へあがるため、萎凋した株の茎を縦に割ると導管が地際部から数十センチの高さまで褐色に変色しています。定植して1ヶ月後ぐらいに病徴があらわれることが多く、植物体の黄化、萎凋は半身だけにみられることもあります。



半身のみ葉が黄化萎凋する症状



葉が淡黄色になり内側に巻く症状



導管の褐変症状

地際部から数十センチまで導管が褐変する



## 病原菌と生態

### エンドウ萎凋病 (*Fusarium oxysporum* f.sp. *pisi*)

本病は土壌伝染、種子伝染します。病原菌は土壌中で耐久性のある厚膜胞子の状態で存在し、エンドウの根が近くにあると発芽し、根から感染します。感染後は導管内を上部に向かって移動し、導管の褐変、植物体の萎凋、枯死を引き起こします。連作することにより土壌中の菌密度が高くなり、被害が拡大します。

宿主範囲は非常に狭くエンドウ以外の作物にはうつりません。

菌は畑土の比較的深い所(20~40cm)でも生存可能で、厚膜胞子の状態では5~15年生存可能といわれています。



地際部や茎の内部に菌糸が見られることもあります。被害茎を湿室に置いておくと、1日で白い綿毛状の菌糸が観察できます。

菌糸を顕微鏡で見ると小型分生胞子が観察できます。



**ポイント!**

### 根腐病 (*Fusarium solani* f.sp. *pisi*) との見分け方

地上部の病徴はよく似ていますが、根腐病は根が腐り容易に引き抜けるのに対し、萎凋病は比較的根はしっかりしています。

根腐病の根は腐ってぼろぼろになっていることが多い



## 防 除 対 策

クロピクテープ、クロールピクリン、キルパーで土壌消毒しましょう。  
エンドウ萎凋病は土壌伝染するので、まず土壌消毒をしましょう。  
土壌消毒をする場合は、畑を全面消毒してから畝立てをしましょう。  
畝だけを土壌消毒すると、畝間に病原菌が残り、感染しやすくなります。  
**農薬は、ラベルの記載に従って使用してください。**

**健全種子を播種しましょう。**

エンドウ萎凋病は種子伝染します。

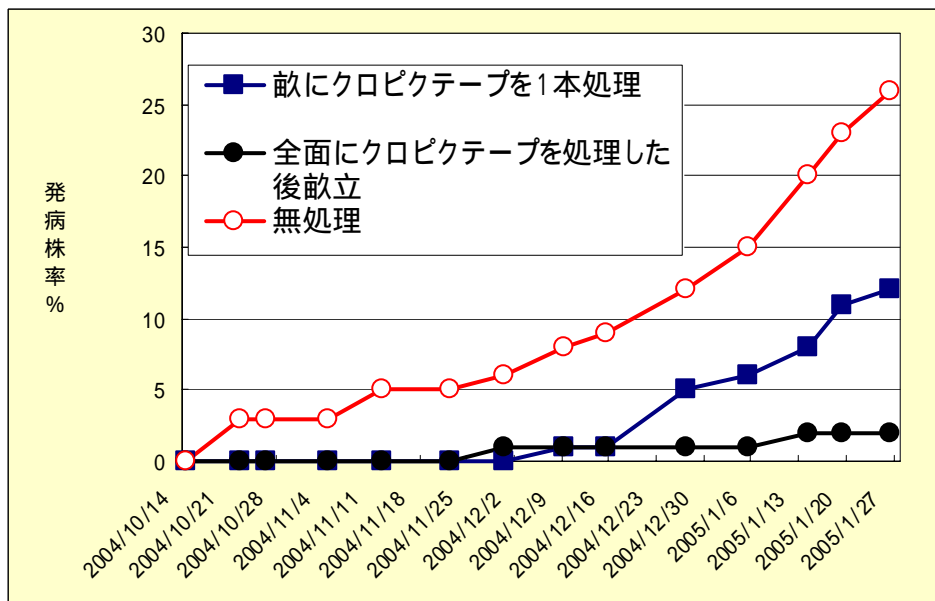
**汚染土壌を外から持ち込まないようにしましょう。**

作業機械等を他のほ場と共有する場合は、機械に付着した土壌の除去に注意  
しましょう。また、発病株も伝染源になるので適切に処分しましょう。

**他の作物を作付するののも一つの方法です。**

エンドウ萎凋病は他の作物にはうつりません。しかし、厚膜胞子の形で土壌  
中で何年も生きているので、数年たってまたサヤエンドウを作付した場合は、  
発病する可能性があります。

(参考)



お問い合わせについて

2005年 3月

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ

所在地: 480-1193 愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-1

電話: 0561-62-0085 (内線471)

FAX: 0561-63-7820

E-mail: [byogaichu@pref.aichi.lg.jp](mailto:byogaichu@pref.aichi.lg.jp)

ホームページアドレス: <http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/>



ムービ君は病害虫防除グループの  
マスコットキャラクターです